

11月

はせやまの風

舞鶴市立新舞鶴小学校だより

令和6(2024)年10月31日発行

白糸中学校区「目指す子ども像」

自ら学ぶ子・人とつながる子

心も体も鍛える子・ふるさとを愛する子

学校HP



学校行事の意義



先日、高校の先生から話を聞く機会がありました。「高校生たちの現状」ということで、その特徴や課題に関する内容でした。その課題の中で、「中学校3年間をコロナ禍で過ごし、学校行事や集団的活動を十分に経験できていない生徒は人間関係づくりに課題を抱えている生徒が多い。」ということがありました。小・中・高等学校のどの段階でも様々な学校行事や集団的活動が位置付けられ、机上の学習とはまた違った達成感や仲間意識を経験させることをねらいとして行っています。

小学校では、先日運動会を開催しました。子どもたちにとっては、様々な行事の中でも特に思い入れの強い行事です。これまでの教科体育で鍛えた力を発揮したり、集団演技ではダンスや集団行動を生き生きと表現したりして、この本番までに一生懸命練習して身に付けた力や技を披露します。



特に“集団演技”では、その当日までの練習期間や本番では、様々な人と関わり合いながら、一つの大きな表現を完成させていきます。よく知った人だけでなく、学年も違うたまたま横に並んだ初めて会話をする人とも、教え合いや連携をしなくては、その演技は成り立ちません。自分をよく知らない人には言い方を間違えるとトラブルになる可能性もあります。初めての人、学年の違う人にどのように話し掛ければよいかを考える必要が出てきます。自主練習でなかなか越えられない課題があるときはどうすればよいか。自分ができないと全体に迷惑をかけることになるかもしれないと考え、その解決策を必死に考えます。ひたすら練習する。誰かに相談する。とにかく解決に向けて自主的に動きます。このように、生きていく上においてとても大切で必要なことを仲間とともに作り上げる行事の中で子どもは身に付けていきます。いろいろな葛藤を乗り越えてできた集団演技だからこそ、本番ではキラキラ輝く素敵なそして素晴らしい笑顔での演技ができるのです。この原稿を書いている今も音楽室からは子どもたちの合唱する声が校長室に届いています。今度は「校内笑顔音楽会」に向けて、子どもたちは動き出しています。これからも学校は、生きる力を育む価値ある学校行事を創造していきたいと考えています。

今月も変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。

校長 亀井 敬介 教職員一同

プラセボ効果



あまり聞きなじみのない言葉だと思いますが、主に医療分野で使われる言葉で「偽薬効果」「プラシーボ効果」とも呼ばれます。本来効果のない薬でも「効果がある」という言葉を信じると、何らかの改善が得られる効果を指します。実際の実験で確認されている事例ですが、「これはものすごく頭痛に効く薬だ」と言って、頭痛を抑える効果のない薬(偽薬)を飲ませると頭痛が緩和するといった効果のことです。最近では、この「思い込みの力」をビジネスの世界でも、社員や組織のモチベーションを上げるために有効に活用していると言われています。これと似た例で、試合に臨むスポーツ選手が「成功すること」や「勝つこと」をイメージし、思い込みの力を最大限発揮する、いわゆるイメージトレーニングもこの類と言えます。

自分自身または周りからの働きかけによって、「自分ができる」「自分なら成功する」と自分を信じ、物事に当たることは成功への近道と考えます。「自分なんかどうせ」「やっても無駄だ」と思って取り組むと成功することも失敗に終わるかもしれません。子どもに当てはめると「自己肯定感」です。教師や大人が、その子のよさをきちんと見取り、言葉で適切に位置付けてやることで、自分に自信を持つことができ、物事に前向きに取り組めます。「大丈夫」「あなたにはこんないいところがある」「今のよかったよ」という言葉が、子どもの自己を肯定する力を高め、「自分ができる」というプラセボ効果につながります。

これからもいろいろな場面で力やよさを発揮する子どもたち。我々教師や保護者が、一人一人の輝きをしっかりと捉えて、評価し、自己肯定感を高められるよう、「認める言葉シャワー」を浴びせていけたらいいと思います。